共益社に謀議を凝す

逆轉した藤永田爭議

大正9.6.20 泉尾署に二十六名檢束さる

遂に暴動と化した藤永田造船所龍工の一團約三百名は十八日夜十二時過ぐ朝日倶樂部で解散したが數派が西に歸る職工連は渡船を斷たれ同倶樂部で寢ることゝなつたが泉尾署では約三十分間毎に正私服の警官を派して十九日午前五時頃迄に約二十六名の檢束者を出して、一ヶ詳細なる取調を行つてゐるが職工側では大風一過後の狼藉たる倶樂部に午前八時より續々と詰めかけ約三百名の職工は各自調食は全部附近の家で炊事を依頼し朝日倶樂部で晝することに十二時から共益社に開かれた幹部會に出席したが殘餘職工は口々に警官の橫暴を叫んでゐる、而して住友伸銅所組合の米十俵及生麩パン屋よりの寄贈四百個その他二三の寄附があつた一方共益社に於いては當選東上した鈴木文治氏の打合せ如何に依つて關西勞働者は一擧し

（大阪電話）

軟化職工 6.18 增加

藤永田爭議

藤永田造船所は本日本工場及谷工場を含し出勤者三百名を算し會社側は軟化職日々增加するを誇つて居るが職工は朝來三團屋朝日倶樂部に集合し出勤簿に捺印したる上今夕大正寺公會堂で開く職組聯合會の準備を急いで居る、尙十七日正午迄に職工團に對する金品の寄附は千三百六十圓二十錢を計上し外に醬油二樽もあつた（大阪電話）

藤永田の職工二千

警官隊と乱闘を演ず

棍棒、仕込杖、木劍を振り鬨の聲を揚げて四つ橋附近大混亂に陷る

遂に負傷者數十名を出す

藤永田造船職工二千名は團結の鞏固なるを誇り第一に憲法發布の不逞意と共に、後五時、約千名は雪隱後助の名の許に共益社の職工から贈られた白米を配らうと西區三軒家朝日倶樂部よりするもの住吉の藤木部よりするもの合して一團となつて泥濘の路を大八車を先頭に會旗を押立て、船津橋畔に白米約二十俵を受領し會社重役前野氏邸の經由する四ツ橋西電車線路に面する西區西長堀北の二丁廻漕店前野組の前に辿り着いたのより先六時四十分飛報を聞付けた新町警察署では署長大内山氏を指揮者として私服廿名、制服巡査七十五名を前野氏方前方電車線路に面して配備し共岸には川口署員若干名阪口署長指揮の下に警戒してゐたが職工團は、四ツ橋を左折し北へ新町通りから裏新町へ出で前野氏方

阪口川口署長負傷

警官側にも職工側にも數十名の負傷者を出す

警察側の負傷者には本部七百號の自動車運轉手市原利三郎が腹部に二箇所の突傷を受けたのを初めとして阪口川口署長は投石の爲めに左腕に打撲傷を受け新町署詰西之内巡査部長藤丸、竹内の二巡査は左の外十餘名の輕傷者を出し職工側では松崎松藏、望月八郎外十餘名負傷し府救護班鬥屋橋の山本醫院等にて應急手當を受けた

巡船課長邸襲る

南本部の一隊二百餘名

警察側の負傷者に本部七百號の自動車運轉手市原利三郎が腹部に二箇所の突傷を受けたのを初めとして阪口川口署長は投石の爲めに左腕に打撲傷を受け新町署詰西之内巡査部長藤丸、竹内の二巡査は左

前略殺到し前野氏宅前を過ぎや俄かに引返して前野氏宅前後五時、約千名は雪隱後助の名の許に共益社の職工から贈られた白米を配らうと西區三軒家朝日倶樂部よりするもの住吉の藤木部よりするもの合して一團となつて泥濘の路を大八車を先頭に會旗を押立て、船津橋畔に白米約二十俵を受領し會社重役前野氏邸の經由する四ツ橋西電車線路に面する西區西長堀北の二丁廻漕店前野組の前に辿り着いたのより先六時四十分飛報を聞付けた新町警察署では署長大内山氏を指揮者として私服廿名、制服巡査七十五名を前野氏方前方電車線路に面して配備し共岸には川口署員若干名阪口署長指揮の下に警戒してゐたが職工團は、四ツ橋を左折し北へ新町通りから裏新町へ出で前野氏方

線路上に職工と格鬪を開始し職工團は手にした棍棒仕込杖木劍金棒の類を揮つて警官隊と入り亂れ肉の響き、血の叫きは暗所に起り全く修羅場を現出した、折柄應援に驅付けた警官隊約三百名の爲めに職工の集團は追はれ西に東に白米の車を殘して引揚げた八時四十分物見高い附近の野次馬さ血潮に彩られ泥土を溶びた白服の警官隊のみを殘して靜寂に復つた

大阪支部にあつた唯一人軸みの綱さされて居た鈴木文治氏は十八日夜共益社に參集の筈の所遂に豫定を變更して藤永田爭議の斷くまで紛糾の上は東上南三氏とも協議の必要があるさして午後十時過の汽車で東京に立歸つた氏は紛擾勃發の因を藤永田に歸し「我れ〳〵は工場委員制度、團體交渉擁等により和解せしめんとしたが前田芳造氏等が頑として肯かぬので斯んな騷ぎを起したのだ然に松奠の警官中拔刀したものがある」と語つたが當夜の警察隊指揮者大木監察官は絶對に否認してゐた

神戸の藤永田職工應援演說

神戸各勞働組合の聯合になる藤永田造船所龍工應援第三回大會は十八日午後七時から神戸湊川遊園地勸業館に開催和田警察氏司會の下に實行委員行政長藏氏が經過報告をなし座長に印刷工組合久留弘三氏を推し三谷幸吉氏は宣言及び左の決議を朗讀した

決　議

一、吾等は橫斷組合を會社せる圖鬪爭迄檢の獲得を期す

二、吾等は產業民衆の精神に依つて勞働組合を基調とする工場委員制度の確立を主張す

かくて演說會に移り工業組合の阪口氏、久留弘三氏左翼合大阪聯合會主事木村鋭吉氏賀川豐彥氏其他の龍工演說があつて午後十時半散會した

兵學校生徒が 爲す泥棒

江田島海軍兵學校一年生山口縣三田尻出身吉本光藏（さは同僚の爲め二十五圓を二回に亘つて竊取したこさ發覺十九日呉海軍軍法會議

片ッ端から 身體檢査

之に對して警察側は共益社附近に刑事數名を停まらせて職工らしき者は片ッ端より身體檢査を行つて通過せしめてゐるが藤永田造船所側は昨夜の暴動で全く氣勢を挫き近してゐた調停案も又復逆轉してしまつた模樣である